

<「知るっば!久留米」 令和2年9月3日(木) 12:30~放送分>

## 久留米の救急救命 ～第1回～ 久留米の救急搬送

<ゲスト：久留米広域消防本部 救急防災課 主査 山下秀雄さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

9月は、『久留米の救急救命』をテーマに医療や救急救命にまつわるお話をお送りしていきます。

今回のゲストは、この方です。

ゲスト:山下秀雄さん (以下「山下」)

久留米広域消防本部、救急防災課の山下です。

よろしくお願いします。

坂本 よろしく申し上げます。

今日は、『久留米の救急救命』の第1回ということで、『久留米の救急搬送』をテーマにお話をうかがいます。

昔から、久留米は「医療のまち」と呼ばれています。

そのひとつに、久留米は救急車による救急搬送が、実はとても優秀だと言われています。

まずは、その現状や特徴について教えてください。

山下 昨年の救急搬送件数は、21,304件で平成21年から右肩上がり増加しています。

そんな中でも、久留米広域消防本部は、119番通報から傷病者を病院に搬入するまでの時間が26.3分と全国トップレベルの速さになっています。

平成30年のデータでは、全国平均は39.5分なので、全国平均よりも10分以上速いことになりました。

坂本 なるほど、30分を切ってるんですね。

1分1秒の差で命が助かるかどうかという現場なので、これはすごいことですね。

実はさっき教えてもらったのですが、病院とかは救命救急センターって言いますが、消防の現場では救急救命って呼んでいるんですね。

これは、言い間違いじゃなかったんですね。

救急救命は、急いで現場に行くことが大事だなと思いました。

そんな全国トップレベルの速さというのは、市の広報紙でも取り上げているところですが、何でそんなに速くできるようになったんですか？

山下 救急隊が日々訓練を積み重ねていることはもちろんなのですが、  
傷病者の観察状況や処置内容等の判断が適切であったか？  
現場滞在時間が遅延していないか？  
後日、救急隊の活動を検証し、徹底した活動時間の管理を行っているからです。

坂本 大したものですね。みなさんの努力に頭が下がります。  
その他には、何かありますか？

山下 久留米市には、久留米大学病院高度救命救急センターと聖マリア病院という24時間365日、重症患者を受け入れてくれる救命センターが2箇所あります。  
また、休日なども内科、外科、小児科、産婦人科など医療機関が当番制で対応しています。  
聖マリア病院では、24時間体制の小児救急もあるため、対応できる医療機関が他都市に比べてとても充実しています。

坂本 そうですよ。市民のみなさま、そして私も市民なんですけど、なんだか当たり前になっているのですが、これってとても幸せなことだと思いました。  
ところで、今年は新型コロナウイルスの感染症が拡大したので、久留米も大変な状況ですよ？  
そういったコロナ禍で、救急車の出動にも何か変化はありましたか？

山下 実は、今年の救急件数は、減少傾向になっています。  
当消防本部で随時検証を実施していますが、若年層における軽症者の搬送割合が減少している一方で、重症者については昨年と同等数を搬送しています。  
そのため、新型コロナウイルス感染症の影響により救急車を必要とする人に出動できていないというような問題は発生していないと考えています。  
当消防本部では、8月18日までに疑いを含む新型コロナウイルス感染症患者の搬送が、98件発生しています。  
救急隊も今までにない緊張感の中で活動しています。

坂本 新型コロナウイルスの影響がここまであるのかなという感じで、救急の現場で活動されている隊員のみなさんも特に今年は大変だなと思いますね。  
新型コロナウイルスに感染された方が重篤になったり、急変されて搬送するような場面もあると思うのですが、そういう感染者の救急搬送の際、特に注意されていることはありますか？

山下 救急隊は、全ての救急出動時に感染対策をしています。  
新型コロナウイルス陽性の患者さんや感染の疑いのある患者さんを搬送した場合は、救急車をエタノールや次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。  
また、その後、オゾンを使って救急車内や使用資機材などを滅菌しています。  
心肺停止の患者さんが新型コロナウイルスに感染している可能性もあるので、ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気が飛散しないような対策も取りながら、救急隊が二次感染しないよう万全

の対策を取って搬送しています。

坂本 なるほど。これ以上ないような厳重な対策をされているのがよくわかりました。  
これで、みなさんも安心して救急車をご利用できると思います。  
これからまだまだ大変だと思いますが、ぜひよろしくお願いします。  
山下さん、ありがとうございました。

山下 ありがとうございました。  
久留米広域消防本部からのお知らせです。  
救命率の向上には、119番通報から救急隊到着までの間に救急現場に居合わせた方々が、迅速に応急手当を実施できるかが重要となります。  
このことから、当消防本部では、住民の方々がひとりでも多く社会復帰となるよう応急手当の普及啓発に努めています。  
現在、新型コロナウイルス感染症の流行に伴いまして、積極的な応急手当の講習はおこなっていません。  
しかしながら、そのような場に遭遇した際は、ぜひ応急手当を実施していただきたいと思います。  
また、意識がなく呼吸をしていない傷病者には、心臓マッサージのみ実施してください。  
自分を守りつつ、傷病者を助けることが重要です。  
ご協力よろしくお願いします。

坂本 次回は、『救急隊員のお仕事』をテーマにお届けいたします。  
消防本部の山下さん、来週もよろしくお願いします。